

施策体系	大項目(政策)			中項目(施策)			小項目(基本事業)					
	9	誰もが快適に暮らせるまちづくり			5	生活交通の充実			1	生活道路の整備		
事業名	小規模土木事業											
予算費目	款	8	土木費		項	2	道路橋りょう費		目	1	道路橋りょう総務費	
	細目	1	道路橋りょう総務費		細々目	1	道路橋りょう総務費		会計種別		一般	
事務区分(根拠法令)			自治事務				予算種別		継続		経常	

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)		事業の内容(対象・目的・意図)		事業実施の手段・手順	
市民に必要な道路等(市道の他、国や地方公共団体が維持管理をしない公共性の高いもの)を整備する必要がある。		生活に密着する公共性の高い道路等を整備することにより、市民の生活環境の向上へつなげる。		自治会から申請のあった事業の内容を審査承認し、適正に完了した事業に対して補助金を交付する。	
活動指標			成果指標		
予算に対する実施件数			申請件数に対する実施件数		
目標値(単位)		実績値(単位)	目標値A(単位)		実績値B(単位)
50件		41件	114件		41件
					36
					%

2 DO

歳出		予算現額(円)	決算額(円)	歳入		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	補助金	30,800,000	30,194,000	財源(割内訳)	国庫支出金		
					県支出金		
					地方債		
					その他		
			一般財源		30,800,000	30,194,000	
合計		30,800,000	30,194,000	合計		30,800,000	30,194,000
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		1.05	6,226,500				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	B 効率性が認められる	C あまり目標を達成していない

4 ACTION

課題		改善策	
市民生活に密着した事業で申請件数が多かったため、申請件数に対する事業費が不足しており、現在は、申請から施行まで約3年待たせている。平成23年度は、実施件数の目標を達成しているが、緊急対応すべき箇所が多くあったため待機件数は増えており、今後も待機件数が増える傾向にある。		事業費を増額し、待機件数を減らす。	
事業の方向性(一次評価)		事業の方向性(二次評価)	
A 計画どおり事業を進めることが適当		A 計画どおり事業を進めることが適当	
その他	平成24年度は、事業費が高い箇所が多かったため、予算に対する実施件数が少なかった。		

施策体系	大項目(政策)			中項目(施策)			小項目(基本事業)					
	9	誰もが快適に暮らせるまちづくり		5	生活交通の充実		1	生活道路の整備				
事業名	道路台帳整備事業											
予算費目	款	8	土木費		項	2	道路橋りょう費		目	1	道路橋りょう総務費	
	細目	1	道路橋りょう総務費		細々目	1	道路橋りょう総務費		会計種別	一般		
事務区分(根拠法令)			自治事務				予算種別	継続		経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)		事業の内容(対象・目的・意図)		事業実施の手段・手順	
道路法によって作成が義務づけられているので、道路管理者として市道の調書、図面を毎年更新する。		市道の状況及び全体像把握。地域住民が安全性快適性が向上した生活道路の利用できる。		道路台帳更新	
活動指標			成果指標		
修正延長			市道実延長		
目標値(単位)		実績値(単位)		成果指標の到達度(B/A)	
1,590m		1,590m		100	
目標値A(単位)		実績値B(単位)		%	
318,570m		318,570m		%	

2 DO

歳出		予算現額(円)	決算額(円)	歳入		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	委託料	2,520,000	2,520,000	財源(割内合訳)	国庫支出金		
					県支出金		
					地方債		
					その他		
			一般財源		2,520,000	2,520,000	
合計		2,520,000	2,520,000	合計		2,520,000	2,520,000
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.15	889,500				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題		改善策	
事業の方向性(一次評価)		事業の方向性(二次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当	A	計画どおり事業を進めることが適当
	道路法で作成が義務付けられている		
その他			

施策体系	大項目(政策)				中項目(施策)				小項目(基本事業)			
	9	誰もが快適に暮らせるまちづくり			5	生活交通の充実			1	生活道路の整備		
事業名	市道管理事務事業											
予算費目	款	8	土木費		項	2	道路橋りょう費		目	3	道路橋りょう維持費	
	細目	1	道路橋りょう維持費		細々目	1	道路橋りょう維持費		会計種別	一般		
事務区分(根拠法令)			自治事務					予算種別	継続		経常	

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)			事業の内容(対象・目的・意図)			事業実施の手段・手順		
国道、県道など幹線道路を補完する市道を適正に維持管理することにより、市民生活の利便性、交通の安全性を向上させる。			生活道路の安全性、快適性の向上			道路パトロール。道路占用、道路加工申請の審査許可。市道の境界確認。道路照明等施設の管理。道路補修及び側溝蓋交換。		
活動指標			成果指標			成果指標の到達度(B/A)		
市道管理延長			道路賠償責任事故件数					
目標値(単位)		実績値(単位)		目標値A(単位)		実績値B(単位)		%
318,570m		318,570m		0件		2件		

2 DO

歳出		予算現額(円)	決算額(円)	歳入		予算現額(円)	決算額(円)		
支出内訳	賠償金	406,600	406,521	財源(割内訳)	国庫支出金				
	需用費等	6,915,017	6,850,814		県支出金				
	委託料	1,404,600	1,404,600		地方債				
	材料費	1,670,456	1,670,456		その他				
合計	10,396,673	10,332,391	一般財源		10,396,673	10,332,391			
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)	合計				10,396,673	10,332,391
		1.25	7,412,500						

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	C あまり目標を達成していない

4 ACTION

課題		改善策	
市道の舗装や側溝などが老朽化しており、年々、道路の補修に関する苦情・要望が増加している。		道路維持予算の確保	
事業の方向性(一次評価)		事業の方向性(二次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当	A	計画どおり事業を進めることが適当
その他			

施策体系	大項目(政策)				中項目(施策)				小項目(基本事業)			
	9	誰もが快適に暮らせるまちづくり			5	生活交通の充実			1	生活道路の整備		
事業名	道路橋りょう維持補修事業(修繕料)											
予算費目	款	8	土木費		項	2	道路橋りょう費		目	3	道路橋りょう維持費	
	細目	1	道路橋りょう維持費		細々目	1	道路橋りょう維持費		会計種別	一般		
事務区分(根拠法令)			自治事務				予算種別		継続		経常	

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)			事業の内容(対象・目的・意図)			事業実施の手段・手順		
国道、県道など幹線道路を補完する市道の交通網を整備し、適正に維持管理することにより、市民生活の利便性、交通の安全性を向上させる。			生活道路の安全性、快適性の向上			道路の舗装補修、側溝補修、橋りょう補修及び床版、暗渠ほか付属施設の維持、補修を緊急性の高い箇所のみ行う。		
活動指標			成果指標			成果指標の到達度(B/A)		
市道管理延長			道路賠償責任事故件数					
目標値(単位)		実績値(単位)		目標値A(単位)		実績値B(単位)		%
318,570m		318,570m		0件		2件		

2 DO

歳出		予算現額(円)	決算額(円)	歳入		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	修繕料	56,997,675	56,997,675	財源(割内合訳)	国庫支出金		
					県支出金		
					地方債		
					その他	19,000,000	20,358,600
			一般財源		37,997,675	36,639,075	
合計		56,997,675	56,997,675	合計		56,997,675	56,997,675
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.55	3,261,500				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	B 効率性が認められる	C あまり目標を達成していない

4 ACTION

課題		改善策	
市道の舗装や側溝などが老朽しており、年々、修繕に要する費用が増加している		大型車の交通量が多い幹線市道は、老朽化した舗装のリフレッシュ工事を行う	
事業の方向性(一次評価)		事業の方向性(二次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当	A	計画どおり事業を進めることが適当
その他			

施策体系	大項目(政策)				中項目(施策)				小項目(基本事業)										
	9	誰もが快適に暮らせるまちづくり				5	生活交通の充実				1	生活道路の整備							
事業名	道路環境整備事業																		
予算費目	款	8	土木費				項	2	道路橋りょう費				目	3	道路橋りょう維持費				
	細目	1	道路橋りょう維持費				細々目	1	道路橋りょう維持費				会計種別	一般					
事務区分(根拠法令)				自治事務				予算種別				継続				経常			

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)				事業の内容(対象・目的・意図)				事業実施の手段・手順			
国道、県道など幹線道路を補完する市道を適正に維持管理することにより、市民生活の利便性、交通の安全性を向上させる。				生活道路の安全性、快適性の向上				道路敷の除草及び清掃等により、安全確保及び環境保全を図る。			
活動指標				成果指標				成果指標の到達度(B/A)			
環境整備事業費				草刈面積				100			
目標値(単位)		実績値(単位)		目標値A(単位)		実績値B(単位)		%			
13,303千円		13,303千円		134,400m ²		134,400m ²					

2 DO

歳出				予算現額(円)		決算額(円)		歳入				予算現額(円)		決算額(円)	
支出内訳	路面清掃委託			874,650		874,650		財源(割内訳)	国庫支出金						
	草刈り委託			1,300,000		1,300,000			県支出金						
	草刈工事			11,127,900		11,127,900			地方債						
									その他						
一般財源							合計			13,302,550		13,302,550			
合計				13,302,550		13,302,550		合計				13,302,550		13,302,550	
人件費概算				人工数(人役)		人件費(円)									
				0.55		3,261,500									

3 CHECK

事務事業の評価	必要性		有効性		効率性		成果指標の達成度	
	A 必要性が高い		A 有効性が高い		B 効率性が認められる		A 目標どおり達成している	

4 ACTION

課題				改善策			
高齢化によって除草等の周辺環境整備が自治会でできなくなっており、行政の負担が年々増加している				道路維持予算の確保 職員による草刈り			
事業の方向性(一次評価)				事業の方向性(二次評価)			
A 計画どおり事業を進めることが適当				A 計画どおり事業を進めることが適当			
その他							

施策体系	大項目(政策)				中項目(施策)				小項目(基本事業)			
	9	誰もが快適に暮らせるまちづくり			5	生活交通の充実			1	生活道路の整備		
事業名	道路橋りょう維持補修事業(工事費)											
予算費目	款	8	土木費		項	2	道路橋りょう費		目	3	道路橋りょう維持費	
	細目	1	道路橋りょう維持費		細々目	1	道路橋りょう維持費		会計種別	一般		
事務区分(根拠法令)			自治事務					予算種別	継続		経常	

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)			事業の内容(対象・目的・意図)			事業実施の手段・手順		
国道、県道など幹線道路を補完する市道の交通網を整備し、適正に維持管理することにより、市民生活の利便性、交通の安全性を向上させる。			生活道路の安全性、快適性の向上			老朽化した道路の舗装補修工事、側溝改修工事を緊急性の高い部分から計画的に行う。		
活動指標			成果指標			成果指標の到達度(B/A)		
事業費			要望件数に対する実施件数					
目標値(単位)		実績値(単位)		目標値A(単位)		実績値B(単位)		7 %
5,123千円		5,123千円		43件		3件		

2 DO

歳出			予算現額(円)	決算額(円)	歳入			予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	調査設計委託費	367,500	367,500	財(源割内訳)	国庫支出金				
	工事費	3,921,750	3,921,750		県支出金				
	用地費	837,452	837,452		地方債				
					その他				
合計		5,126,702	5,126,702	一般財源		5,126,702	5,126,702		
				合計		5,126,702	5,126,702		
人件費概算			人工数(人役)	人件費(円)					
			0.25	1,482,500					

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	B 効率性が認められる	C あまり目標を達成していない

4 ACTION

課題		改善策	
市道の路肩整備や側溝改良など地元要望が多くあるが、緊急的な道路修繕を優先する必要があるため、計画的な道路整備が進まない。		道路維持予算の確保 優先順位の明確化	
事業の方向性(一次評価)		事業の方向性(二次評価)	
A 計画どおり事業を進めることが適当		A 計画どおり事業を進めることが適当	
その他			

施策体系	大項目(政策)				中項目(施策)				小項目(基本事業)			
	9	誰もが快適に暮らせるまちづくり			5	生活交通の充実			1	生活道路の整備		
事業名	橋りょう長寿命化修繕事業(第二高千帆橋)											
予算費目	款	8	土木費		項	2	道路橋りょう費		目	4	道路新設改良費	
	細目	1	道路新設改良費		細々目	46・48	道路新設改良事業費		会計種別	一般		
事務区分(根拠法令)			自治事務				予算種別		継続		臨時	

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)			事業の内容(対象・目的・意図)			事業実施の手段・手順		
市道の橋りょうの中には、建設後50年以上が経過したものもあり、今後、大規模な補修や架け替えの必要性を内在している可能性がある。日常的な維持管理と予防的な修繕を行うことで、橋りょうの長寿命化を図る必要がある。			予防的な橋りょう修繕及び計画的な橋りょう架け替えを行うことで、大幅なコストの縮減と予算の平準化が図られる。			山陽小野田市橋りょう長寿命化修繕計画に基づき、緊急性の高い橋から保全管理を行う。 第二高千帆橋 L=62.0m		
活動指標				成果指標				成果指標の到達度(B/A)
事業費				事業進捗率(事業費ベース)				
目標値(単位)		実績値(単位)		目標値A(単位)		実績値B(単位)		47 %
60,092千円		27,289千円		60(%)		28(%)		

2 DO

歳出		予算現額(円)	決算額(円)	歳入		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	調査設計委託	10,189,000	10,188,950	財(源割内合訳)	国庫支出金	35,173,800	20,088,900
	工事費	49,902,700	17,100,000		県支出金		
					地方債	18,000,000	7,200,000
					その他		
合計		60,091,700	27,288,950	一般財源	6,917,900	50	
				合計	60,091,700	27,288,950	
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.65	3,854,500				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	C あまり目標を達成していない

4 ACTION

課題	改善策
橋脚の補修は河川内の作業となるため、作業期間が非出水期(11月~4月)に規制される。	河川管理者(山口県)との協議を早めに進めて、余裕のある工程を検討する。

事業の方向性(一次評価)		事業の方向性(二次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当	A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	前年度繰越額 5,255,000円、翌年度繰越額 25,884,900円 財源内訳: 予算現額の一般財源 6,917,900円のうち 6,917,850円は、入札結果による不用額
-----	--

施策体系	大項目(政策)			中項目(施策)			小項目(基本事業)					
	9	誰もが快適に暮らせるまちづくり			5	生活交通の充実			1	生活道路の整備		
事業名	市道高泊千崎線道路改良事業											
予算費目	款	8	土木費		項	2	道路橋りょう費		目	4	道路新設改良費	
	細目	1	道路新設改良費		細々目	46	道路改良事業費(交付金)		会計種別	一般		
事務区分(根拠法令)			自治事務				予算種別	継続		臨時		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)			事業の内容(対象・目的・意図)			事業実施の手段・手順		
当路線は、国道190号と郷、浜地区を結ぶ幹線道路で交通量の多い路線であるが、幅員が狭いうえに線形が悪い。また、車道の電柱が交通の支障となる等、交通安全上の問題が多い。さらに、高泊小学校への通学路であるが、歩道幅員が1m未満と狭く歩行者の安全が確保されていない。			歩行者の安全と交通の円滑化が図れる。 延長 L=570m 幅員 W=6.0(14.0)m			用地取得が平成21年度で完了しており、道路改良工事を進める。		
活動指標				成果指標				成果指標の到達度(B/A)
事業費				事業進捗率(事業費ベース)				
目標値(単位)		実績値(単位)		目標値A(単位)		実績値B(単位)		100%
65,381千円		65,381千円		100(%)		100(%)		

2 DO

歳出		予算現額(円)	決算額(円)	歳入		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	工事費	65,380,900	65,380,900	財(源割内訳)	国庫支出金	61,808,500	61,808,500
					県支出金		
					地方債	3,200,000	3,200,000
					その他		
			一般財源		372,400	372,400	
合計		65,380,900	65,380,900	合計		65,380,900	65,380,900
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.35	2,075,500				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題		改善策	
事業の方向性(一次評価)		事業の方向性(二次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当	C	事業の抜本的な見直し又は休止・廃止の検討が必要 事業完了
その他	前年度繰越額 59,005,000円 平成24年度で事業完了		

施策体系	大項目(政策)				中項目(施策)				小項目(基本事業)									
	9	誰もが快適に暮らせるまちづくり				5	生活交通の充実				1	生活道路の整備						
事業名	市道片山線道路改良事業																	
予算費目	款	8	土木費				項	2	道路橋りょう費				目	4	道路新設改良費			
	細目	1	道路新設改良費				細々目	46	道路改良事業費(交付金)				会計種別	一般				
事務区分(根拠法令)			自治事務						予算種別		継続		臨時					

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)			事業の内容(対象・目的・意図)			事業実施の手段・手順		
当路線は、片山地区の集落と県道宇部船木線とを結ぶ重要な路線であるが、幅員が狭隘で歩道も設置されていないため危険な状態にある。また、県道交差点改良事業に伴い接続位置の変更を求められている。			歩行者の安全性と沿線住民の利便性が向上する。 延長 L=100m、幅員 W=6.0(11.0)m 延長 L=300m、幅員 W=6.0m			県道の交差点改良事業の完了までに市道片山梅田線までの用地買収、新設工事を完了し、引き続き先線のバイパス道路を整備する。		
活動指標			成果指標			成果指標の到達度(B/A)		
事業費			事業進捗率(事業費ベース)					
目標値(単位)		実績値(単位)		目標値A(単位)		実績値B(単位)		82 %
26,546千円		12,215千円		50(%)		41(%)		

2 DO

歳出		予算現額(円)	決算額(円)	歳入		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	工事費	26,546,000	12,214,500	財(源割内訳)	国庫支出金	21,405,000	11,514,500
					県支出金		
					地方債	3,100,000	600,000
					その他		
			一般財源		2,041,000	100,000	
合計		26,546,000	12,214,500	合計		26,546,000	12,214,500
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.25	1,482,500				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
県道交差点改良事業で県道が付替えられると、既存の市道から県道へ出られなくなる。	県事業と調整を図る。

事業の方向性(一次評価)		事業の方向性(二次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当	A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	前年度繰越額 10,514,500円、翌年度繰越額 12,635,650円
-----	---------------------------------------

施策体系	大項目(政策)				中項目(施策)				小項目(基本事業)			
	9	誰もが快適に暮らせるまちづくり			5	生活交通の充実			1	生活道路の整備		
事業名	市道片山梅田線道路改良事業											
予算費目	款	8	土木費		項	2	道路橋りょう費		目	4	道路新設改良費	
	細目	1	道路新設改良費		細々目	46	道路改良事業費(交付金)		会計種別	一般		
事務区分(根拠法令)			自治事務				予算種別	継続		臨時		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)			事業の内容(対象・目的・意図)			事業実施の手段・手順		
当路線は、彼岸田地区の集落から市道片山線を経由して県道宇部船木線を結ぶ路線であるが、幅員が狭隘で歩道も設置されていないため危険な状態にある、また、中村、梅田地区から有帆小学校への通学路として利用されている。			歩行者の安全性と沿線住民の利便性が向上する。			県道の交差点改良事業の完了前までに測量設計、用地買収、新設工事を完了する。		
活動指標				成果指標				成果指標の到達度(B/A)
事業費				事業進捗率(事業費ベース)				
目標値(単位)		実績値(単位)		目標値A(単位)		実績値B(単位)		89 %
20,306千円		12,195千円		56(%)		50(%)		

2 DO

歳出		予算現額(円)	決算額(円)	歳入		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	工事費	19,729,700	11,619,500	財(源割内訳)	国庫支出金	19,723,200	11,994,700
	用地費	576,000	575,859		県支出金		
					地方債	500,000	200,000
					その他		
			一般財源		82,500	659	
合計		20,305,700	12,195,359	合計		20,305,700	12,195,359
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.25	1,482,500				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
県道交差点改良事業で県道が付替えられると、既存の市道から県道へ出られなくなる。	県事業と調整を図る。

事業の方向性(一次評価)		事業の方向性(二次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当	A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	前年度繰越額 5,319,500円、翌年度繰越額 8,110,200円
-----	-------------------------------------

施策体系	大項目(政策)				中項目(施策)				小項目(基本事業)									
	9	誰もが快適に暮らせるまちづくり				5	生活交通の充実				1	生活道路の整備						
事業名	市道成松山川線道路改良事業																	
予算費目	款	8	土木費				項	2	道路橋りょう費				目	4	道路新設改良費			
	細目	1	道路新設改良費				細々目	46・47	道路改良事業費				会計種別	一般				
事務区分(根拠法令)			自治事務						予算種別		継続		臨時					

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)			事業の内容(対象・目的・意図)			事業実施の手段・手順		
当路線は、中学、高校へ通学する歩行者が多いが、歩道がないために危険を感じており、以前より歩道設置の要望がある。H22年7月の豪雨災害により、当路線の厚狭新橋が被災したため、災害復旧事業により架け替えを行うこととなった。			歩行者の安全性と沿線住民の利便性が向上する。 延長 L=100m 幅員 W=5.5(9.0)m			災害復旧事業と道路事業の合併施工により、橋を拡幅し歩道を設置する。また、JR美祢線の踏切が近接しているため、併せて踏切拡幅も行う。		
活動指標				成果指標				成果指標の到達度(B/A)
事業費				事業進捗率(事業費ベース)				
目標値(単位)		実績値(単位)		目標値A(単位)		実績値B(単位)		81 %
129,976千円		103,243千円		68(%)		55(%)		

2 DO

歳出		予算現額(円)	決算額(円)	歳入		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	設計委託費	1,260,000	1,260,000	財(源割内訳)	国庫支出金	22,768,100	22,768,100
	支障移転委託	237,300	237,300		県支出金		
	工事費	126,882,300	100,182,000		地方債	96,400,000	72,400,000
	用地費	82,000	81,512		その他		
	補償費	1,514,000	1,482,362		一般財源	10,807,500	8,075,074
合計		129,975,600	103,243,174	合計		129,975,600	103,243,174
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.65	3,854,500				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題		改善策	
踏切拡幅については、JR西日本に工事を委託する必要がある。		事業実施にあたりJR西日本と協議を進める。	
事業の方向性(一次評価)		事業の方向性(二次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当	A	計画どおり事業を進めることが適当
その他	前年度繰越額 29,653,350円、翌年度繰越額 26,700,300円		

施策体系	大項目(政策)				中項目(施策)				小項目(基本事業)			
	9	誰もが快適に暮らせるまちづくり			5	生活交通の充実			1	生活道路の整備		
事業名	市道新生町1号線道路改良事業											
予算費目	款	8	土木費		項	2	道路橋りょう費		目	4	道路新設改良費	
	細目	1	道路新設改良費		細々目	47	道路改良事業費(特定)		会計種別	一般		
事務区分(根拠法令)			自治事務					予算種別	継続		臨時	

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)			事業の内容(対象・目的・意図)			事業実施の手段・手順		
当路線は、現道幅2m程度の生活道路で道路横に幅1.5mの用水路があるため、車の離合ができなくて日常生活に支障をきたしている。住民の生活利便性向上のために、県道と接続している市道新生町2号線までの拡幅整備が必要である。			道路改良によって沿線住民の生活利便性が向上する。 延長 L=567m 幅員 W=6.0m			下水道工事と調整しながら、水路の下流側より改良工事を行う。		
活動指標				成果指標				成果指標の到達度(B/A)
事業費				事業進捗率(事業費ベース)				
目標値(単位)		実績値(単位)		目標値A(単位)		実績値B(単位)		100 %
19,630千円		19,630千円		45(%)		45(%)		

2 DO

歳出		予算現額(円)	決算額(円)	歳入		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	工事費	19,629,750	19,629,750	財(源割内訳)	国庫支出金		
					県支出金		
					地方債	17,600,000	17,600,000
					その他		
				一般財源	2,029,750	2,029,750	
合計		19,629,750	19,629,750	合計		19,629,750	19,629,750
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.25	1,482,500				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策

事業の方向性(一次評価)		事業の方向性(二次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当	A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	前年度繰越額 16,995,300円
-----	--------------------

施策体系	大項目(政策)				中項目(施策)				小項目(基本事業)			
	9	誰もが快適に暮らせるまちづくり			5	生活交通の充実			1	生活道路の整備		
事業名	市道前場川左岸線道路改良事業											
予算費目	款	8	土木費		項	2	道路橋りょう費		目	4	道路新設改良費	
	細目	1	道路新設改良費		細々目	46	道路改良事業費(交付金)		会計種別	一般		
事務区分(根拠法令)			自治事務					予算種別	新規		臨時	

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)			事業の内容(対象・目的・意図)			事業実施の手段・手順		
当路線は、国道190号と埴生漁港や埴生市街地を結節しており、海産物の流通や地域生活における重要な路線であるが、現道が車道1車線で一方通行の規制がかかっているため不便である。			道路を拡幅することで、通行規制が解除でき、鮮魚流通や生活利便性の向上が図られる。 延長 L=170m 幅員 W=6.0(10.0)m			山口県が施工している前場川周防高潮対策事業の進捗に併せて道路整備を行うよう、県に工事委託を行う。		
活動指標				成果指標				成果指標の到達度(B/A)
事業費				事業進捗率(事業費ベース)				
目標値(単位)		実績値(単位)		目標値A(単位)		実績値B(単位)		28 %
74,099千円		19,642千円		25(%)		7(%)		

2 DO

歳出		予算現額(円)	決算額(円)	歳入		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	県工事委託料	74,099,000	19,642,012	財(源割内訳)	国庫支出金	52,913,000	19,642,000
					県支出金		
					地方債	19,000,000	
					その他		
			一般財源		2,186,000	12	
合計		74,099,000	19,642,012	合計		74,099,000	19,642,012
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.15	889,500				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	C あまり目標を達成していない

4 ACTION

課題		改善策	
県事業の進捗に併せて県へ委託する必要がある。		県との情報交換を密にして予算を確保する。	
事業の方向性(一次評価)		事業の方向性(二次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当	A	計画どおり事業を進めることが適当
その他	翌年度繰越額 54,456,988円		

施策体系	大項目(政策)			中項目(施策)			小項目(基本事業)								
	9	誰もが快適に暮らせるまちづくり			5	生活交通の充実			2	地域公共交通の利用促進					
事業名	地域公共交通活性化事業														
予算費目	款	7	商工費			項	1	商工費			目	1	商工総務費		
	細目	1	商工総務費			細々目	7	地域公共交通活性化事業			会計種別	一般			
事務区分(根拠法令)			自治事務					予算種別	継続		臨時				

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)			事業の内容(対象・目的・意図)			事業実施の手段・手順		
平成20年度策定の交通活性化計画を実行するために、平成21年3月に具体的な行動指針を示す地域公共交通総合連携計画を策定した。この計画に示す項目の中から、優先順位を考慮し関係機関の協力を得ながら、生活交通活性化に必要な事業に取り組む。			公共交通による効率的、効果的な広域移動、地域内移動の確保により、市民福祉の向上に努める。			市は、山陽小野田市生活交通活性化協議会が、地域公共交通総合連携計画に沿った事業活動に取り組むことができるよう支援する。地域公共交通総合連携計画において重点的に取り組む事業の方向性は次のとおり。①市街地移動サービスの見直し ②地域内移動サービスの見直し ③交通結節点の機能強化		
活動指標			成果指標			成果指標の到達度(B/A)		
生活交通活性化協議会の開催回数(※H25年1月に解散)			設定が困難					
目標値(単位)		実績値(単位)		目標値A(単位)		実績値B(単位)		
設定が困難		0回						%

2 DO

歳出		予算現額(円)	決算額(円)	歳入		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	交通活性化協議会負担金	50,000	50,000	財源(割内訳)	国庫支出金		
					県支出金		
					地方債		
					その他		
			一般財源		100	50,000	50,000
合計		50,000	50,000	合計		50,000	50,000
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.1	593,000				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	C 必要性について検討が必要である	A 有効性が高い	A 効率性が高い	D 数値設定があいまいである又は実績値を把握していない

4 ACTION

課題	改善策
連携計画の作成、実施等を目的に設置された山陽小野田市生活交通活性化協議会は、概ね連携計画期間が終了したことと、市としてデマンド交通に取り組むこととなったため、H25年1月に解散した。解散後は、これに代わる協議会の設置を検討する必要がある。	今後は、地域公共交通会議の設立を検討する。

事業の方向性(一次評価)	事業の方向性(二次評価)
C 事業の抜本的な見直し又は休止・廃止の検討が必要	C 事業の抜本的な見直し又は休止・廃止の検討が必要

その他	上記50,000円の負担金は、共通バス時刻表作成経費に充当。協議会解散後、協議会の残予算42,596円は一般会計に繰り入れ。
-----	--

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	9	誰もが快適に暮らせるまちづくり	5	生活交通の充実	2	地域公共交通の利用促進
事業名	JR美祢線・小野田線利用促進事業					
予算費目	款	7	商工費	項	1	商工費
	細目	1	商工総務費	細々目	1	商工総務費
事務区分(根拠法令)	自治事務				予算種別	継続 臨時

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順
平成22年7月の豪雨により美祢線の橋りょうが流失するなど甚大な被害が発生した。美祢線は、石炭・石灰の貨物輸送を通じて地域の発展に大きく寄与し、また、通勤・通学で地域の皆様に広く利用されてきた地域にとって貴重な財産である。しかしながら、一方で美祢線の利用の減少が指摘されており、地元の長門市、美祢市、当市が中心となり、県、関係団体、地域と一体となってJR美祢線の利用促進に取り組むことが肝要である。一方、小野田線については、利用客の減を理由に減便されている。	公共交通の利用促進を図り、市民福祉の向上に努める。	平成22年9月に設立した「JR美祢線利用促進協議会」を中心に次の事業を行う。①JRマレール運動として、市職員や沿線企業の従業員の通勤や出張利用、ノーマーカーの設定、沿線公共施設の利用料減免等を推進。②沿線3市の商工会・商工会議所、観光協会等と連携して、利用促進の機運醸成と取組の拡大を図る。③JR美祢線フォотコンテツの実施。④美祢線車両のラッピング事業。「JR美祢線・小野田線利用促進協議会」においては、写真展を実施しながら啓発活動を中心に小野田線の利用促進を重点に取り組む。

活動指標		成果指標		成果指標の到達度(B/A)
JR美祢線・小野田線利用促進協議会の開催回数		JR美祢線については新たな利用需要の創出(3市協議会の目標)		
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	20%
設定が困難	2回	230人/日(JR美祢線)	46人/日(JR美祢線)	

2 DO

歳出			歳入		
支出内訳	JR美祢線利用促進協議会負担金	4,000,000	4,000,000	3,800,000	
合計		4,000,000	4,000,000	3,800,000	

財源(割内訳)	国庫支出金			
	県支出金			
	地方債			
	その他			
	一般財源	100	4,000,000	3,800,000
合計			4,000,000	3,800,000

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.3	1,779,000

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	B 有効性が認められる	A 効率性が高い	C あまり目標を達成していない

4 ACTION

課題	改善策
美祢線については、平成22年9月17日に設立した沿線3市等で構成する「JR美祢線利用促進協議会」を中心に事業を行っているが、JR小野田線については、上部の利用促進組織がないため、市の利用促進協議会が中心的な役割を果たすこととなる。一定の危機感を持ちながら、確実な利用促進と継続性のある取組が必要となる。	平成24年2月に小野田線も含めた「山陽小野田市JR美祢線・小野田線利用促進協議会」を設立。H25年度からは、協議会年間予算30万円を有効活用しながら利用促進に取り組む。当面は、小野田線の利用促進に特化した取り組みを行う。

事業の方向性(一次評価)		事業の方向性(二次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当 とりわけJR小野田線の利用促進を強化する。	A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	活動指標については、JR美祢線利用促進協議会として活動する側面もあるため設定が困難である。JR小野田線の両指標については、今後設定を検討する。JRの問題は、地域公共交通の維持確保だけではなく、「市のイメージ・活力」の側面からも利用促進を図る必要がある。
-----	--

施策体系	大項目(政策)			中項目(施策)			小項目(基本事業)							
	9	誰もが快適に暮らせるまちづくり			5	生活交通の充実			2	地域公共交通の利用促進				
事業名	地方バス路線維持対策事業													
予算費目	款	7	商工費			項	1	商工費			目	1	商工総務費	
	細目	1	商工総務費			細々目	3	地方バス路線維持支援事業			会計種別	一般		
事務区分(根拠法令)			自治事務					予算種別	継続		経常			

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)			事業の内容(対象・目的・意図)			事業実施の手段・手順		
市民の日常生活に必要なバス路線を維持するため、バス事業者3社に対して補助金を交付している。しかし、近年のバス利用者の減少や燃料価格の上昇等により地方バス路線維持費補助金が高額化しており、財政状況が厳しい中、多大な負担となってきている。一方で、高齢化の進展や合併に伴う生活圏域の広域化等により市民の生活交通ニーズは多様化しており、こうしたニーズに対応した効率的・効果的なバス路線への再編が必要となっている。			市民の日常生活に必要なバス路線を維持することにより、通勤・通学者、高齢者及び障がい者などの日常の移動手段の確保を図る。			地方バス路線維持費補助金の交付。国の補助基準による広域路線の補助金は、国が直接事業者へ補助する。国の補助対象路線を除く広域的な路線に対しては、県補助金を含めて市からの補助金として事業者に補助する。国・県の基準に達しない市内路線は、市からの単独補助となる。		
活動指標				成果指標				成果指標の到達度(B/A)
地方バス路線維持費補助金額(一財ベース)				H24年度(H23.10.1~H24.9.30)バスの1日当たりの利用者数				
目標値(単位)		実績値(単位)		目標値A(単位)		実績値B(単位)		96.4 %
120,000,000円		123,707,000円		2,740人		2,641人		

2 DO

歳出		予算現額(円)	決算額(円)	歳入		予算現額(円)	決算額(円)	
支出内訳	地方バス路線維持費補助金	142,094,000	132,354,000	財(源割内訳)	国庫支出金			
					県支出金	7	8,000,000	8,647,000
					地方債			
					その他			
				一般財源	93	134,094,000	123,707,000	
合計		142,094,000	132,354,000	合計		142,094,000	132,354,000	
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)					
		0.1	593,000					

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	B 必要性がある	A 有効性が高い	B 効率性が認められる	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題		改善策	
近年のバス利用者の減少や燃料価格の上昇等により地方バス路線維持費補助金が高額化しており、財政状況が厳しい中、多大な負担となっている。また、高齢化の進展や合併に伴う生活圏域の広域化等により市民の生活交通ニーズは多様化しており、こうしたニーズに対応した効率的・効果的なバス路線への再編が必要となっている。また、長期的に他の交通施策の導入も模索する必要がある。		①地域公共交通会議の設置を検討する。 ②乗降調査等を実施し利用状況等を把握する。 ③バス事業者と連携し路線の再編等に取り組む。 ④バス事業者と連携し低床バスの導入や省エネ走行に取り組む。 ⑤ノーマイカーデーにおけるバス利用等の促進を図る。	
事業の方向性(一次評価)		事業の方向性(二次評価)	
計画どおり事業を進めることが適当		計画どおり事業を進めることが適当	
A	バス路線の再編を進めながら、他の交通施策の導入も検討する。	A	
その他			

施策体系	大項目(政策)				中項目(施策)				小項目(基本事業)									
	9	誰もが快適に暮らせるまちづくり				5	生活交通の充実				3	駐車場・駐輪場の整備						
事業名	市営駐車場管理運営事業																	
予算費目	款	1	駐車場事業				項	1	駐車場事業				目	1	一般管理費			
	細目	1	駐車場事業一般管理費				細々目	1	駐車場事業一般管理費				会計種別	特会(駐車)				
事務区分(根拠法令)			自治事務						予算種別		継続		経常					

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)				事業の内容(対象・目的・意図)				事業実施の手段・手順			
平成11年に完成した新幹線厚狭駅の利用者の利便性を考え、駅南口に駐車場を開設した。				駅利用者に低額な料金で駐車スペースを提供し、安定した駐車場経営を目指す。				利便性の向上と会計処理の迅速化。年間を通じた駐車システムの維持管理と清掃等。			
活動指標				成果指標				成果指標の到達度(B/A)			
駐車台数(対当初計画値)(台)				料金収入(対当初計画値)(円)				99			
目標値(単位)		実績値(単位)		目標値A(単位)		実績値B(単位)		%			
32,485		34,536		27,108		27,044					

2 DO

歳出		予算現額(円)	決算額(円)	歳入		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	需用費	1,019,000	864,151	財源(割内訳)	国庫支出金		
	役務費	148,000	143,632		県支出金		
	委託料	1,260,000	1,233,727		地方債		
	使用料及び賃借料	1,500,000	1,500,000		その他	100	4,677,000
	公課費	995,000	994,500		一般財源		
合計		4,922,000	4,736,010	合計		4,677,000	4,736,010
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.5	2,965,000				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題		改善策	
H19以降において人件費を計上しており、今年度の赤字が予想されていた。現在、安定した収益があるが、今後、駅南口の区画整理完了後、民間の駐車場開設の可能性もあり、その場合は収益減も考えられる。今年度10月に委託管理契約が満了となるため、今後の委託管理の方法と契約先の検討が必要である。償還終了後を見据えての料金体系の見直しが必要。		H24では人件費予算計上していない。	
事業の方向性(一次評価)		事業の方向性(二次評価)	
A 計画どおり事業を進めることが適当		A 計画どおり事業を進めることが適当	
その他			

施策体系	大項目(政策)			中項目(施策)			小項目(基本事業)				
	9	誰もが快適に暮らせるまちづくり		5	生活交通の充実		3	駐車場・駐輪場の整備			
事業名	市営駐車場建設事業償還金(元金)										
予算費目	款	2	公債費		項	1	公債費		目	1	元金
	細目	1	公債元金償還金		細々目	1	地方債元金償還金		会計種別	特会(駐車)	
事務区分(根拠法令)			自治事務				予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)		事業の内容(対象・目的・意図)		事業実施の手段・手順	
駐車場開設に伴い合計305,500(千円)起債及び県貸付にて調達した。平成10年度から償還を開始。平成24年度末現在の累計償還金額は207,694(千円)。残額は34,806(千円)。		駅利用者に低額な料金で駐車スペースを提供し、安定した駐車場経営を目指す。		平成10年度から平成30年度までの20年で償還する。	
活動指標			成果指標		
			償還金(元金)(円)		
目標値(単位)		実績値(単位)		成果指標の到達度(B/A)	
				100	
				%	

2 DO

歳出		予算現額(円)	決算額(円)	歳入		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	地方債元金	17,557,000	17,556,309	財源(割内訳)	国庫支出金		
					県支出金		
					地方債		
					その他	100	17,557,000
			一般財源				
合計		17,557,000	17,556,309	合計		17,557,000	17,556,309
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.05	296,500				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題		改善策	
なし			
事業の方向性(一次評価)		事業の方向性(二次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当	A	計画どおり事業を進めることが適当
	平成30年度完済予定。(県の貸付22,000千円は21年度完済)		
その他			

施策体系	大項目(政策)			中項目(施策)			小項目(基本事業)				
	9	誰もが快適に暮らせるまちづくり		5	生活交通の充実		3	駐車場・駐輪場の整備			
事業名	市営駐車場建設事業償還金(利子)										
予算費目	款	2	公債費		項	1	公債費		目	2	利子
	細目	1	公債元金償還金		細々目	1	地方債元金償還金		会計種別	特会(駐車)	
事務区分(根拠法令)			自治事務				予算種別	継続		経常	

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)		事業の内容(対象・目的・意図)		事業実施の手段・手順	
駐車場開設に伴い合計305,500(千円)起債及び県貸付にて調達した。利子合計は725,705千円。平成10年度から償還を開始。平成24年度末現在の累計償還金額は668,231(千円)。残額は5,748(千円)。		駅利用者に低額な料金で駐車スペースを提供し、安定した駐車場経営を目指す。		平成10年度から平成30年度までの20年で償還する。	
活動指標			成果指標		
			償還額(利子)(円)		
目標値(単位)		実績値(単位)		成果指標の到達度(B/A)	
				100	
				%	

2 DO

歳出		予算現額(円)	決算額(円)	歳入		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	地方債利子	2,241,000	2,240,053	財源(割内訳)	国庫支出金		
					県支出金		
					地方債		
					その他	100	2,241,000
			一般財源				
合計		2,241,000	2,240,053	合計		2,241,000	2,240,053
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.05	296,500				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題		改善策	
なし			
事業の方向性(一次評価)		事業の方向性(二次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当	A	計画どおり事業を進めることが適当
	平成30年度完済予定(県の貸付22,000千円の利子3,373千円は21年度完済)		
その他			

施策体系	大項目(政策)			中項目(施策)			小項目(基本事業)					
	9	誰もが快適に暮らせるまちづくり			5	生活交通の充実			3	駐車場・駐輪場の整備		
事業名	市営駐輪場管理運営事業											
予算費目	款	8	土木費		項	5	都市計画費		目	1	都市計画総務費	
	細目	1	都市計画総務費		細々目	1	都市計画総務費		会計種別	一般		
事務区分(根拠法令)			自治事務				予算種別		継続		経常	

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)		事業の内容(対象・目的・意図)		事業実施の手段・手順	
鉄道、バス等の利用者の利便性を考え、主な交通結節点に駐輪場を設けている。現在、市内には9箇所の駐輪場があり1,576台の自転車を収容できる。		生活交通への接続の充実を目的として、駐輪場利用者に利便性のよい駐輪スペースを提供し、満足度を向上する。		駐輪場用地の確保及び駐輪場における放置自転車の撤去を実施することで、駐輪スペースを確保する。	
活動指標			成果指標		
放置自転車処理台数(対前年度比)(台)			駐輪場収容台数(台)		
目標値(単位)		実績値(単位)	目標値A(単位)		実績値B(単位)
183		83	1,576		1,576
					100
					%

2 DO

歳出		予算現額(円)	決算額(円)	歳入		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	使用料及び賃借料	816,000	814,014	財源(割内訳)	国庫支出金		
					県支出金		
					地方債		
					その他		
			一般財源		100	816,000	814,014
合計		816,000	814,014	合計		816,000	814,014
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.25	1,482,500				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
全体の収容台数は充分であるが、混雑している駐輪場では路上駐輪が生じている。利用者うちの一部のマナー違反者が原因である。	パトロール時に路上駐輪は駐輪場内に移動し、注意を促す札を取り付けている。関係機関とも連携しマナーアップに取り組んでいる。

事業の方向性(一次評価)		事業の方向性(二次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当	A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--